



園長だより

令和7年6月2日発行

ありんこ親子保育園

園長 中嶋 悦子

6月に入りました。いよいよどろんこ遊びが始まります。いつもこの時期になると、子どもの頃に夢中になって遊んだことを思い出します。私が当時住んでいた家の裏にあった公園には大きな砂場があり、毎日、日が暮れるまで近所の友達と一緒に、山や街、SL や人魚姫など、様々なものを作って遊んでいました。砂山にトンネルを作って、そこに水を流してみたら山が崩れ、もっと固めることを思いついたり、道具を使う方が早くできることを覚えたり、友達と協力しながら砂場いっぱいに大きな街を作ったりすることもありました。砂場で色んなことを想像しながらどろんこになって作るのがとても楽しかったことを覚えています。今考えてみると、時間を忘れるほど遊び込み、集中力が鍛えられたのだと思います。毎日、外で遊んでいましたので、当然体力もつきました。この経験は、想像することから創造へと繋がり、大人になった今でも創意工夫の原動力になっていると感じます。そんな心身を育てるどろんこ遊びは、その後の私の人生に大きく影響していると実感しています。

当園の保育の特徴の一つにも、どろんこ遊びがあります。毎年、6月の園長だよりでは、『どろんこ遊び』について載せていますが、新入園児の保護者の皆様にも是非、どろんこ遊びの素晴らしさを知っていただければと考えています。幼児期のどろんこ遊びは、立派な幼児教育活動です。遊んでいるだけではない、頭も心も身体も健康に育つ、すごい効果があることをご紹介しますと思います。



どろんこ遊びの効果その1 「免疫力をつけ、健康な身体づくりに役立つ」

裸足になって泥に触れることで適度な刺激となり、皮膚が鍛えられます。泥にはバクテリア（雑菌）が混ざっており、その雑菌に対する抵抗力も強くなっていきます。また、泥に触れることで、五感（視覚や聴覚、味覚、触覚、嗅覚）が発達し、感性を磨くことができるようになります。最近の子どもたちはこうした遊びが少なくなったためか、五感が乏しいそうです。そのため、感受性が低く、相手を思いやる心、というのが薄れてきて、これがいわゆる昨今社会問題となっている「いじめ」につながってくると言われています。



どろんこ遊びの効果その2 「心身ともに開放的になれる」

水や砂、泥は子どもの身も心も開放してくれる遊びのツールです。夢中になって遊ぶ中で「本来の自分」を表に出しやすくしてくれます。どろんこ遊びを通して子どもは、よく笑い、友達とたくさんおしゃべりをしています。心が開放的になり、自分の気持ちを吐き出すことによってスッキリとした気分になります。自然と大きな声を発し、仲間と協力し合い色んな声掛けをしています。そして、全身を使った遊びで体力をつけ、丸い泥団子を作ったり、シャベルや型抜きなどの道具を使ったりすることで手先が器用になります。



どろんこ遊びの効果その3 「想像力・創造力・集中力・応用力などの心の根っこが育つ」

どろんこ遊びを通じて、子どもたちは様々な力を身に付けています。想像力・創造力・集中力・応用力がその代表です。泥や砂は、食べ物になったり、山や街になったり、動物になったり、様々なものになります。このようにどろんこ遊びは、何かに見立てたものを作ることが多い遊びです。ここで鍛えられた想像力は、創造


力となり、先々で様々な場面で役に立ってくれるでしょう。そして、何かを作り上げるには、集中力も必要です。子どもは、自分が作りたいと思ったものを一生懸命に作り上げます。その時、脳の中では、想像力と同時に集中力も鍛えられているのです。そして、見立てることにより応用力も育っていきます。目の前に無いものを想像して泥から作り、他の物で代用しながら工夫して遊べるようになります。例えば、高く大きな山を作るためには、土台を大きくしっかり作らなければなりません。このように試したり、体験したりしながら、育つのが応用力というわけです。これは、将来に繋がる大切な“生きる力の基礎”になるものです。

そして、泥や砂で作ったものは、必ず壊れてしまうという特徴があります。どんな力作であっても、持ち帰ることはできません。そこがまた良いと思うのです。作ったものは消えてしまいましたが、子どもの心の中には、たくさん遊んで完成させた満足感と、また作りたいという意欲が残ります。繰り返し作りたいと思い、実際に作る経験を重ねるごとに上達をする。それは、想像力・創造力・集中力・応用力の発達の証になるものです。また、どろんこ遊びは、脳をフル回転させてくれる要素がたくさんあります。知能の発達にも役立ってくれますので、幼児期にたくさん体験させてあげたい遊びです。



どろんこ遊びの効果その4 「忍耐と人間関係を学べる」

どろんこ遊びでは、友達と一緒に何かを作ったり、ごっこ遊びをしたりすることがあります。複数で遊ぶため、様々な場面に遭遇します。時にはトラブルになったりもするでしょう。使いたい道具を友達が使っていて、順番を待つこともあるでしょう。自分中心だった幼児期前期の頃から、だんだんと友達との関りを学び、相手の気持ちを知ることや我慢することを通して、協力し合うことが大切だと学んでいきます。自分勝手にやりたいようにやり、言いたいことだけを言っていたのでは、皆で楽しむことは出来なくなります。子どもは、それらを身体と心で感じながら、遊びのルールや人間関係のマナーを学んでいきます。そして、友達との関りの中で、考えの違いを知っていきます。大人は、「ケンカはダメ!」「お友達と仲良くしてほしい」と思いがちですが、ケンカそのものよりも、そこから何も学ばないのが良くないのです。考えやイメージの違いはどこにでもあるもの。そこで言い合いが始まるのもよくあることです。しかし、そのトラブルやもめごとをどう収め、その後どのように遊ぶのかをお互いに話し合うことが大切です。誰でも嫌な場面に遭遇したら、自分の都合のよいように解釈することがあります。でも、そればかりをしていると、相手の気持ちはわかりません。そこからは思いやりの気持ちは生まれてこないでしょう。相手の気持ちを知り、時には相手を受け入れることや我慢しなくてはならないこともあるでしょう。それを知ることも大きな学びです。



おわりに

どろんこ遊びには、様々なメリットがありましたね。幼児教育には、必要で大切な遊びの一つです。保育園では安全を考慮した上で、思いっきり自由にどろんこ遊びを楽しめるようにしています。子どもたちが思う存分遊べるように、どろんこ遊びの際は、汚れてもいいお洋服とタオルをお持ちください。お洗濯が大変でしょうが、「汚れた分だけ遊んだ証拠」と捉えていただけると有り難いです。何卒、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

